京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

明治四十四年 本紙定價 一ヶ月金[illegible] 廣告料[illegible]
發行兼編輯人 高木久太郎 印刷人 [illegible]
發行所 京城 京城新報社
仁川支局 仁川二丁目

蓬仙人の仙術の理法
余の親たる片田源七氏の實驗に就て

鷗田 山水

（本稿は蓬仙人入京當時の起稿なる[illegible]の爲め揭載聊か遲延せり[illegible]）

[illegible]大層に聞ゆれど。[illegible]一でも會合も一[illegible]彼の迷論の如きも[illegible]余が其種の趣味を[illegible]狀態を問ふに絶な[illegible]を以て、心理作用[illegible]の見聞覺知に力め[illegible]より專門の學理を[illegible]云ふにあらず、又[illegible]玩具扱ひするも議な所[illegible]ず、精究者の識厭[illegible]驗的研究を繼續し[illegible]通じて闡明せるめ[illegible]的なる精神靈動換[illegible]續する迷信の徒に[illegible]觀察を賞ふて一切[illegible]に自分に考へて居[illegible]研究の進途に[illegible]未だ乘々しく世に[illegible]點はない點の丸て[illegible]程の價値も無いか[illegible]り數ある知人の中[illegible]知れぬ者もあるの[illegible]來。仙人直傳の必[illegible]著をシゴキ火中を[illegible]及を踏み、世にも[illegible]、世人を驚かした[illegible]仙術に就いて段々[illegible]にも此種の疑問を[illegible]い、そこで蓬仙人[illegible]に就いて、余の眼[illegible]けの事を書いて見[illegible]り親しく蓬仙人を[illegible]仙術に就いて研究[illegible]只余の客觀的觀[illegible]ぬ、と云つて至々[illegible]無論ない、少なく[illegible]數間二間の距離にお[illegible]の實驗に對して、[illegible]とを以て觀察したる[illegible]ので、若しも蓬仙人[illegible]ないと云へばうんな[illegible]知れぬ、それでも自分は自分自身の查察力を以て、觀察し肯定し、それに從つて得たる確信は、明晰なる絶對的反證を見ない限り容易に曲に從つて其知れないつもりである。序に一言云ふて置くが蓬仙人は其實驗中、觀衆にして一言でも批評らしい事を言へば、すぐ舞臺に來てやつて見よと云ふ、やれない程なら默まつて見て居れと言はぬ計りの權幕で意氣地張る、是では國務大臣以上でなければ一國施設の批評が出來ず、觀客席は上でなければ横綱の相撲は批判されぬ事になりはせぬが、由來實行家と批評家はれのづから立場を異にするは言を俟たぬ、尤もあんな事なら誰ち山に登つて仙人の弟子入りするまでもないかも知れぬ、そこで少し其理窟を研究して見よう

總督政治批評（三）

◎四月十二日東京毎日新聞所載

總督の借上

朝鮮總督府の言論抑壓益々甚しく、終に總督に對する批評を禁ずるに至る、總督は政治家の群を離れて、神聖犯すべからざる列に入れるか、借上も亦極まる

◎四月十二日東京日日新聞所載

▲米國宣教師の聲張を侵すとし朝鮮總督府日本人の傳道に干渉すと怪からぬ談

▲布教傳道に壓服などは珍無類夫で米國宣教師の機嫌取りは豫更以て沙汰の限

▲内地人の布教に干渉する總督府の役分聽外人社會の嘲笑を受くとは當然のみ

▲京童曰く寺ナイは即ち寺無い總督府は聽て朝鮮に日本の寺無いとせんとか

▲新聞の總督論を治安に妨害ありとなす警務總監部の親方思ひ其愚及ぶ可らず

◎四月十四日東京日日新聞所載

▲詩人思想界善導の時代言論の取締必要と總督府員群す其善導の手段誤りや

▲繁瑣を撰摘せらるゝを苦しみ言論を壓迫するは非立憲の極在鮮役人我儘甚し

外事一束

▲米旌　互惠條約案十二日米國臨時議會に提出其議事に上るは二十一日頃。

▲更迭　現任駐韓米國大使は獨逸に轉し其後任は前の州知事カスギルド氏。

▲隕石　此程羅馬府附近に於て一大隕石天空より降下三十尺の地中に入る。

▲暴風　十二日米國オクラホマ、ミッソーリー、カンサス三州に大暴風起り死者數千、數百の負傷者を出し家屋の破壞せられたるもの數千頗る慘憺たり。

▲球界　我早稻田大學の野球團一行十三日米國桑港に上陸彼選手と戰ふ筈。

▲佛國　ウオベッは三種酒產地なるが其質粗惡常に他地方と區別されしが、今回他地方より數百人を使用し三十二萬ガロンの三種酒類を破壞す。

▲非常　の騷動を惹起し佛國政府軍隊を派し[illegible]騷擾起る。

▲佛國　政府派遣二萬の軍隊は前記暴徒の三種產地を占領せしも動員計畫。

▲手緩　れの爲暴徒復まに跋扈し財產の破壞は一般に渉り恢復數年を要す。

▲直選　米國下院は上院議員を人民の直接投票にて選出する事を可決せり。

▲祝宴　露清交渉結果を告げし爲駐清露公使は公使館に大夜會を開催せり。

▲清國　盛宣懷は清國幣制改革準備として各種の調査を實行する事に決定。

◎新刊紹介

▲大國民（四月號）　村松代議士を社長とし元朝鮮日日新聞社長今井忠雄氏編輯主宰者となり發行する雜誌「大國民」四月號は例により鋼誌獨得の筆鋒銳く能く時弊を痛論評隲して余蘊なし特に力を朝鮮總督政治に用ひ其非なる所を指摘して洩らさゞるは大に吾人の意を得たるものなり在野名士の論説談話を始め趣味に富む軟文字を載せたるは編者か苦心察すべく就中本誌中出色の讀物は佐々木安五郎氏のビリケン論にして言々句々盛毒の肺腑を抉ぐるの威あらしむ（一冊十錢東京市大國民社）

▲最新朝鮮一班　總督府警務總監部員田口春二郎氏の編著にして朝鮮事情を一目の下に知悉せしめんが爲地誌郡邑產業會社衛生風俗等を詳細に記述せり（一冊一圓京城本町日韓書房發行）

▲ニコ〳〵（第三號）　牧野元次郎氏の「ニコ〳〵宗の坐右銘」を始めニコ〳〵として働く者の爲め闡言とすべき記事を以て充さる（一冊十五錢東京市新橋南金六町ニコ〳〵倶樂部）

▲精神修養（第二號第四號）　本誌は釋尊號として出しものなれば全部釋迦牟尼佛に關する諸名士の感想談を以て滿されし自から千古大偉人の面影を偲ばしむ（一冊十五錢東京市淺草區橋場町精神修養社）

▲無我の愛（第十九號）　伊藤證信氏の信念を始め各論共無我愛の鼓吹に努めむ（東京府下千駄ヶ谷町伊藤證信方無我生活社一冊三錢五厘）

召使れ初

第四十七回　[illegible]法師



意を含める總右衛門の胸の針は、忽ちその尖頭を現はし來りぬ、現在兄が生死の場、武士の面目立つか立つまじきか、左右運命の決する處、されど兄を助くるには、其身の心を殺さねば爲るまじく、兄が武士にしての一分を全うするには、我身女としての意地を捨てねばなるまじ、これ果して孰れの心に忍び得べき事か、思案して孰れの身に堪ね得べき事か

佐十郎もし玉の如く瑕の無き武士ならましかば、れ道は悦びて身と心とを殺したるかも知れじ、されど彼は武士として風上にも置かれまじき不義不孝の數々を爲し盡して、從來父上母上に血の涙を絞らせ給ひたる御方、近頃は堅く改心、再び不埒不都合は爲すまじとの御誓言もれはすなれど、果して眞實か、例の甘き辯口に我身を欺き給ふにては無きか、御改心とあるは一時の方便、其實は前の惡行を改めさせず、不義を盡し給ふにてあらば、れ父樣れ母樣御老年の御境界に、杖と柱とを兩ながら喪はせて、御愁嘆如何ばかりと御推察申し上げるに餘りあり、この事まづ彼女の胸を衝きぬ、此の事あるが爲め、此處に兄を助くるは、一面に於て不孝の罪を冒すも同じ事ならんとの恐れも出でつ、彼女は唯返答の仕樣に困じぬ、白刄は今兄と兩親との頭上に落ちんとす、何れを助け、何れを救ふが、妹として子としての道ならんか、この二つの岐れ道に迷惑して彼女は何日までも堅なりき、總右衛門はその樣を忱と見入りて

「れ道、此方返答は喃、此ほどに云ふを聞かぬは、現在兄御を見殺しにする心かな」

「………」

「これさ、什麼を其樣に考へてあるぞや喃、妹として兄の急を助くるは人間としての道であるまいかな、和御寮口から頼むとの一言が、やがて救ひの神となる、で無くば兄御は町會所の手に渡つて、此上憂い目見るであらうでよ、可愛い和御寮兄御と知つて耻辱を與かせるは心ない、さ、諾と承知の旨を云はう、そうして兄御の命助けう」

「………」

「それとも否か、見す〳〵兄御を暗い谷へ突き落して、たのればかりが好い月花を見やうとするか」

「什麼とある、れ道、什麼とある」

「………」

奥の間にはれ道の返答聞はぬに、團尾は急き立ち、手を拍つて「れ道は什麼ど、まだ相談はまらぬか、兎角する間日も暮れる、御門限間に合はねでど、あつてはれ屋敷にても何かと面倒、疾々返答聞かせくれぬか」と火の點く如き催促なり、傭兵衛聞いて「さて不思議、れ道の返答何處にも見ゑぬ、團尾樣申されし詞も掛けず實家へ歸つたではあるまいか」と彼方此方をうろ〳〵して「れ道」と呼び立つる



この聲耳に入りたれど、れ道は立ちも爲し得ざりき、心の覺悟まだ何れとも決し難ねて、目前に兄の危急を見ながら、之を見捨てゝ、主の命に赴く程の勇氣も出でず、さればとて身を捨てゝ、兄の難儀を救はん程の心も決まらず、石の如く身を硬うして、空しく其處に默居たりき。



米國軍隊出動

東京電報（十八日）紐育來電によれば米國軍隊は益々國境を超へ墨西哥に入り官軍と革命軍との戰爭に關渉するに至れりとの事なるが米國は兼てよりテキサス州に軍隊を駐屯せしめ不時に備ふる所あり右軍隊はガーター將軍之を指揮し一萬の精兵を有し米墨の國交斷絶したる際は臨機の行動を執らしむる命を受け居り一時間半の豫告を以て全部忽ち行動を興し得べき準備整ひ居れりと

▲靖國神社合祀告示 十七日の官報にて朝鮮暴徒鎭壓及臺灣土匪討伐の爲め死亡せる者百三十九名を來る五月より靖國神社に合祀する旨告示されたり

▲朝鮮王族と鐵道 鐵道院は朝鮮王族公族乘車の場合に於ける列車運轉に關する警備規程を定めたり

▲預金部の現金 大藏省預金部には目下國債證の外現金六千餘萬圓を所有せり

▲韓海漁業總會 韓海漁業株式會社は十七日創立總會を開き定款の變更創立費の支出等を附議し取締役社長に安藤謙介を推選し其他重役の如く取締役、監査役、相談役等を選定し散會したり

報

▲司法官會議 十七日より司法官會議を開き岡部法相より改正商法及民刑事取扱方に關する訓示ありたり

●總督の歸任期

寺内總督は來五月廿日前後に愛國婦人會朝鮮本部第二回總會を京城に開會する事となり居れば其開期前までに夫人同伴歸任さるゝ豫定にして其際は東京よりの來會代表隨場者一行も同道渡鮮すべし

總督府官吏移動

寺内總督の歸任と共に總督府官吏に一大移動あるべしとは一般に傳へらるゝところなるが聞くところに因れば現總務部長官事務取扱小松緑氏本官に陞任して外事局長を兼任し石塚取調局長國分中樞院書記官長等は閑地に就くことゝなるべしと云ふ

●定例長官會議 十八日午前十一時より定例長官會議を開き山縣政務總監を始め各部長官列席政務の打合をなし午前十二時散會せり

●總監邸の午餐會 山縣政務總監は同官邸に十八日メソヂスト教會總監督マグドウエル氏同監督ハリス博士宣教師ノーブル氏を招待して午餐の饗應ありたるが尚は總督府より宇佐美内務部長官、小松外事局長夫人、桑原秘書官並に山縣プレス社長及木原牧師陪席したり

●韓銀の改稱期 韓國銀行は愈々來る九月一日より朝鮮銀行と改稱する事に決定し目下種々の準備中なりと

●土地收用令（一）

前號に發布の事を報ぜし土地收用令條文如左

第一條 公共の利益と爲るへき事業の爲必要あるときは本令に依り其事業に要する土地を收用又は使用することを得

第二條 土地を收用又は使用することを得る事業は左の各號の一に該當するものなることを要す

一、國防其他軍事に關する事業
二、官廳又は公署建設に關する事業
三、教育學藝又は慈善に關する事業
四、鐵道、軌道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、電氣、瓦斯、又は火葬場に關する事業
五、衞生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其他公用の目的を以て國又は公共團體に於て施設する事業

第三條 土地に關する所有權以外の權利、水の使用に關する權利及工作物其他土地の定著物は本令に準して之を收用又は使用することを得

第四條 土地を收用又は使用することを得る事業は朝鮮總督之を認定す
朝鮮總督前項の認定を受けんとするときは地方長官を經由し朝鮮總督に申請すべし但し宮内省又は國の起業に係るときは宮内大臣又は主務官廳より朝鮮總督に協議すべし

第六條 天災事變に際し急施を要する事業の爲土地を使用するの必要あるときは府尹又は郡守は其事業の認定を爲すことを得
前項の使用期限は六月を超ゆることを得す
第一項の認定ありたるときは起業者は直に其土地を使用することを得
前項の使用期限は六月を超ゆることを得す

第七條 土地の收用又は使用に關し關係人の受くべき損失は起業者之を補償すへし

第八條 第四條の公告ありたるときは起業者は其の土地に關し收用又は使用の權利を取得する爲關係人に協議を爲すべし

第九條 前條の協議調はさるとき又は協議を爲すこと能はさるときは起業者は地方長官の裁決を求むることを得此の場合に於ては同時に關係人に之を通知すべし

第十條 第六條の使用に依り生ずる損失又は第二十一條の損失の補償に付協議調はさるときは地方長官之を決定す

（以下次號）

土地收用は隨時施行

…南大門外街路如何…

久しき間の懸案に係かる土地收用令は昨十七日官報制令第三號を以て漸く發布を見るに到れり然れども該令施行の地域及期日に就ては其附則に規定あるが如く朝鮮總督之を定むる筈なれば其決定なき以上は未だ施行せられざるものと見ることを得べし元來土地收用に關する規則は内地に在ては施行と同時に直ちに全般に效力を生ずるを以て原則とせるも朝鮮は之と異なり隨時必要に應じて地域を指定し居れり則ち朝鮮に於ける該令は例を邊境に的めるものにして必要毎に之を施行するを以て原則とせるものなれば素より其期日及地域に至りては豫め決定し能はざる由而して差向き其適用を受く可きものは彼の南大門外街路擴張地域にして右は併韓前より留縣に屬し三浦京城理事官の如き熱心之を希望し在任中關係當事者と内部との間に立ち非常に斡旋の勞を執りたるも遂に解決を見るに至らずして今日に及び爾來總督府内務部之を繼承し引續き關係人等と協議中なり然るに其九分通りは決定せるも殘り一分中尚は背むせざるものある爲め既定豫算の買收額に達する能はず今尚ほ五里霧中に在るもの、如し此際當局者の語る處によれば南大門外街路の擴張は何人も見て以て必要とする處なれば愈々協議折合はざるに於ては斷乎として該令を適用して一擧に之を解決せんのみと言へり

●醫師大會準備

既報四月二十九日より二日間總督府醫院大講堂に開會さる朝鮮醫師大會は來會者三百名以上に達せん見込にて其準備も大に進捗したりと因に帝國醫科大學よりも博士三名來會講演ある筈にて滿州よりも三四名の醫士同地醫會を代表し來會なすことは既に決定しをれりと

●會議所臨時總會 京城商業會議所に於ては十八日午後三時より臨時總會を開き四十四年度の同會議所豫算を附議し終りて大聯合會の提出議案に關して打合をなす

●聯合大會出席員

十七日東京商業會議所より京城商業會議所に達したる電報によれば本月廿五日より開會する日鮮會議所大聯合會に全國より出席する人員は十六日迄に氏名の決定したる分八十名猶二十日迄に出席總數は決定すべしといふ

●教員養生所生徒

在朝鮮内地人小學校教師養成の目的を以て總督府中學校内に特設したる臨時小學校教員養成所は本月中には開所の運びに到るべく入所生徒は内地各府縣知事に推薦方を依囑せしに希望者意外に多く四千餘名に達し居れり而して昨十八日を以て締切り提出履歴書に就き愼重なる詮衡を遂げたる上三十名丈け採用する都合なりといふ尚ほ入所生徒の縣別は九州中國方面に多かりし由

●朝鮮教科書編纂 朝鮮人學童に使用せしむべき教科書は過渡期に際し韓國政府所定のものに訂正を加へ便宜使用し居れるが右は一時的の處分にして決して永久的のものに非ざるや勿論なり依て早晩一定の大方針を立て之に基き編纂せざるべからず而して關屋學務局長の東上滯在は此問題の解決も亦主要要件の一なりと云ふ

清水文之輔君を送る

水浪生

畏友清水文之輔君は過日當地十八銀行支店長より其本店詰となつて籍を長崎に移した、是に於てか朝鮮經濟協會は曾つて觀原小田柿の兩君を失ひたるが如く今亦其創立者の一人として有力なる一人を失ふことゝなつた。過る十五日の經濟協會例會に於て清水君内地轉籍の事が報告された、而して君が既に内地に在るの故を以て特に送別の辭等は述べられなかつた、余は清水君と共に經濟協會創立の事に與り、爾來五ケ年間君と交遊を重ね常に半島の經濟財政問題に就いて論議を上下したものだ、今や君内地に轉ず、半島の財界は爲に一明星を失ひ、余は爲に經濟財政問題に關する論議者の一人を失ふに到る、玆に於てか此機會に於て、余として君を送るの一言なかるべからずであるのだ。

余が始めて清水君を知りしは米國に於てで、時は今より十數年の昔しである、其後ち君の消息を知らざりしが、七八年なりしか。君は宮城高等商業學校の英學教授となり、長崎商業會議所の書記長となり、次で長崎十八銀行元山の同行支店長となり、亦た同地商業會議所の會頭となつたのである。三十九年、丁度余が當地に來りし頃、君は元山支店長より京城支店長に轉じ、爾來半島中央財界の人となつて公私の爲に盡瘁することゝなつた。君が赴任當時の當地十八銀行支店は如何にも微々たるものであつた、實を云へば世間からは其存在さへ認められぬほどであつた、而るに君は四ケ年の永き間の奮闘、同行のオンドル式營業所に陣取り、遂に今日の同行支店をして今日有らしむるに到つた、のみならず、前には仁川出張所、次で羅州出張所及び龍山出張所を新設し、他の同業者と共に半島財界の發達に貢獻を爲したのであつた、以上は君が銀行者として盡した私的方面であるが、君の公的方面の盡力、乃ち經濟協會及び銀行集會所等の創立、及び維持活動に關する盡力は著大なるものであつて、彼の手形交換所の設置の如きも實に君の主張に基因すること尠なからざるものであるのだ。君は在留邦人中稀に見る精悍な人物であつた、從つて事を爲すに極めて精悍であつた、故に余は君が餘りに精悍なるを見て銀行業のガツチナシキ營業に果して適任なるや疑問としたのであつた、併し君は其精悍の氣を以て前にも云つた通り四ケ年の永き歲小なるオンドル式營業所に立籠り、十八銀行をして今日あらしめたのである。併し玆に注意すべきことは君の氣は精悍なりと雖、君の身體は南鐵を以て造られ居らざりし事だ。果然君は過勞の結果、四十二年の夏、突然黒血を吐き、村上醫學士及び安藤漢城病院長より肺病患者たることを宣告さるゝに到つた、事玆に至んで如何に精悍なる君も業を廢し病床に籠居するのやむなきとなつた、爾來宮島及び鎌倉に轉地療養を爲すこと殆んど二ケ年、今は幸に健康体に復しつゝありと雖も餘す所は病餘の衰軀のみであるのだ。君は在留中酒色を避け、一意專心公私の爲に盡力した、而して其報酬として獲たるものが過勞の結果の肺病であるのだ。噫人の悲慘の事まし、而かも我友清水君の運命の悲慘なるに到つては誰れか哀心同情の感無からん乎である、幸ひに君今健康体に復しつゝありと云へば、捲土重來何事をか爲すの時あるべきを信ず、而かも余は世人が清水君の運命に鑑み、學ぶところあつて、決して同君の轍を踏まざらんことを熱心に慾望するものであるのだ。終りに臨み余は今後天惠が清水君に下り、君が今日の愁眉が一日も早く開かれんことを切に神掛けて祈るものであるのだ。

●土地證明規則

聯合會の建議に對し

現行土地證明規則は舊韓國政府の定めたるものを踏襲し居れるが其效力甚だ微弱にして法律上第三者に對抗する能はず之が爲めに不測の損害を關係者に及ぼしたる實例枚擧に遑あらざるが如し依て昨年聯合會の商業會議所聯合會は速かに現行規則を改正して有效のものたらしむ可く希望し其旨決議の上當局に建議する處ありしが右は獨り商業會議所側の叫呼せるのみならず法曹社會に於ても熱心其不都合を指摘しつゝあるより總督府も漸く之が改正を爲さゞる可からざるの必要を認むるに到り目下立案審議中なりと聞く

●郵便局長會議 通信局にては十七日より約一週間京城元山平壌釜山の各郵便局長を召集して會議を開き居れり

●養鶏調査開始 農商工部にては朝鮮各地に於ける養鶏調査すべく過般來準備中なりしが先づ養鶏者の最も多き南鮮地方より調査することゝし十八日農務課より三田氏を忠淸南北道全羅北道金川大邱慶尚北道三浪津釜山馬山等の各地へ右調査の爲め出張せしめたりと

●東拓の奸手段

地方に於ける土地買收に就て

東洋拓殖株式會社の行ふ事爲す事總べて物議の種となれば實に不思議の極みなるが今又土地買收に就ても地方農民中には苦情の絶間なく異口同音に同社の奸手段を憤り居れり今一々其例證を擧ぐる時は被買收者に迷惑を及ぼすの虞れなるを以て之を省略し概括的に其手段を掲げんに同社が地方に土地買收を企つるや決して公々然と交渉し出ですして必ず人を以て當りを付くるが如き是れ半面に營利を度外し能はざる其立場として恕するを得べきも茲に所謂奸手段と稱するは左に非ずして地方郡守に依囑し命令的に所有主を脅かさしむるに在り而して之が爲に不當の廉價を以て賣渡を強ひられ迷惑し居るもの尠からざる由なるが是等の人々は不日相呼應して總督府に訴へ同社の反省を促がさしめんと目下寄り〳〵協議中なり

◆人さまざま◆（三十七）

海浦篤彌君

京城民團會計役海浦篤彌君は正さに畸人傳中の一人であらう、彼の阿房宮然たる名古屋城は君が奇行の一班を語つて居る、該城は大阪博覽會の遺物であるが君が垂涎三千丈に依つて京城に流されて來たのだ、或學者の解剖說に據ると畸人の骨は何處か異がつた點があるさうだ、則ち骨相的に對する鉛のように抑へが利かない、隨で海浦君の骨もドコやら左ふであるらしい、君が會計役となつた時は民團は紊亂其極度に達して居つた、夫れを逐ふ〳〵整理して完全無缺に近かせたのは鉛の君の力であらふ、君の眼中には情實も因緣も何も無い、此の間も友人畑某の滯納處分を行つて恩人和田君に面喰はしたなど君ならでは出來ない處だ、如此融通が利かない處に會計役としての價値あり又存在の意義がある

移米穀斤量制理由

前號所載大阪商業會議所より當地にて開催の商議聯合大會に提案の朝鮮米雜穀斤量制に關する理由左の如し

一、朝鮮米雜穀は其品種數多なるに加へ容量亦區々にして同一ならず尤も包裝は概ね內地叺を使用するを以て本來は一叺五斗を標準とするも甲は五斗一升乙は五斗二升甚しきは殊更に五斗三升或は五斗四升を算するものを製出し業者取扱上頗る繁雜を免れず

二、最も著しき事例は五斗一升のものゝ又は五斗五合のもの或は五斗一升五合のものを合同し之を一口となして仕向くるを以て到着地に於ては商品受渡しに際し容量の平均を定むる爲め合利害得失の件ふありて單純なる取引を爲し能はざるを至難とす

三、少額の容量と雖も差異ある毎に口數に分別せんか品種の多種なると相待ちて益取扱上に困難を加ふ是れ吾々組合が本日迄實驗したる處に關す

四、前項に因りて容量を一定せしめんか更に弊害を釀出す卉は生産地或は積出港において五斗入を製出するとせんか品種乾燥充分ならざるものに因りて仕立つる時到着地に於て改量の際は少くも百分の二以上の升不足を生じ紛議を絶たず

五、以上の理由により之を斤量本位に改正する時は品質の關係により容量に膨大するものと雖も斤量に於て正反對の結果を來し隨て品質の改善を促進するの上に不尠效果を奏し集散地の取扱上多大の日時と費用とを節し取引は尤も宜しきを得る者と信ず

御斤量建に關する希望の要點左の如し

一、賣買位建の件 一百斤建となすこと
二、一叺の斤量を一定すと件 一、米一叺正味百二十斤入 二、大麥同九十斤入 三、胡麻荏子同同八十斤入 四、小麥、麥安、大豆、黍、粟、大豆其他雜穀同同百十斤入
三、叺の件 一、可成量目の一定したるものを使用すること
四、荷造の件 一、横縄四ッ掛ケ 二、縱縄二ッ掛ケ
五、斤量の一定を確實ならしめ合せて生産の改良を期するため從來の以升に代るに當分の內米雜穀百分の三に歩引のこと
六、斤量建は本年新穀出廻りの時より實行すること

●仁川居留民會

既報の如く仁川民團にては十七日午後七時より民團會議四十四年度豫算案の十四日附を以て認可となりし旨報告ありし後埋立組合より受取るべき埋立地百五十坪を代金にて受取りくれとの同組合の申出を却下し全然土地にて受取る事に決議し其の他二三項協議し同十一時を散會す

●無根なる報道

十七日岩崎仁川民長及び稻田民會議長が京城に來り京畿道警務總監部を訪問消防に關する打合せをなしたる後度支部に赴き築港に關する件を聽取する筈なりしも何等得る所なく即日歸仁せしが之に付某新聞の如きは臆測を逞らし十八日午後三時より民團役所樓上にて民長が公衆に對し築港に關する說明など〳〵報道せしが這は全く無根の事にして其と知らず傍聽に出掛し者の迷惑こそ察すべし

●木浦新報社新築 木浦新報社にては同社の新築並に發展を祝する爲同地松島公園にて來る二十五日大園遊會開催の由にて本社にも案內狀を寄せたり

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客 十七日の分 乘車客 六一〇 下車客 七六一 乘車賃金 一、二三三、二八

▲南大門驛荷扱高 十七日の分 發送 七四噸 到着 三一九噸

▲龍山驛乘降客 十七日の分 乘車客 二〇八 下車客 二一四 乘車賃金 二七七、九三

▲龍山驛荷扱高 十七日の分 發送 一噸 到着 三五噸 貨物賃金 八、三一

公人私人

▲加藤新吉（元山郵便局長）十七日龍山へ 本旅館へ
▲森繁（辯護士）十七日三日月旅館へ
▲秀島浩二（辯護士）十七日釜山行
▲坂上貞信（群山民團長）十七日仁川行
▲小笠原平作（長野縣商業會議所議員）十七日山本旅館へ

▲仁川港ノ出入船舶▼

▲城津丸 十九日大連より入港
▲彰化丸 同 小樽より入港
▲城津丸 同 長崎へ向出港

▲京城手形交換高▼

四月	金高	枚數
九日	二三一、二〇四、五六	六二一

▲治外法權▼

本紙の發行停止と明日の移入禁止に關し、世論が大分やかましい樣だ、右の中九州探題福岡日々の曰く、頃日寺内子爵は二三の新聞紙と朝鮮の治路上に就て戰端を開始し或は其移入を禁止し、或は其發行を停止しつゝあり、而して世人は子爵が既に批評の矢表に立つ能はざるを見て、勝敗の數の明かなるを暗算しつゝあるなりと▲嗚呼寺内總督は實に氣の毒な人だ、彼にして併合を了ると同時に總督を止めなば、今日の如く批評の矢表に立つの要は無かつたのである、思へば人間も汐時を見ることが大事だ▲或人は現在の寺内を評して爪の拔けた虎だと、爪の拔けた虎なら一向に恐い事は無い、ナニ新聞の言論を抑壓する、ソンナ事位は氣にするに足らずだ、燈火の將さに滅せんとするや、一度は明に明るくなるものだよ▲殊勝なるはソンナ餘計の事を云ふから爪の拔けた虎だなど言はれるのであるのだと、南紙曰く總督政治は武斷政治にあらず總督政治の辯護をして居ることである▲何にしても今總督政治の評判が良くないのは事實で、寧ろ玆に到らしめたのは寺内其人の遣方にもよるが、一トツは補佐役其人の遣方が惡いからでもある▲思ひ見よ、補佐役とは讀んで字の如くオイオイ、タスケるのであるのだ、而るに彼れ補佐役の面々等は一擧一動寺内の評判の惡るくなる樣な事ばかりをして居る、現角殃は內から出るの原則に洩れずか▲目下來京中のマクドウエルが過日培材學堂の廣庭で說教をヤツた、集會の老幼男女四千餘、そいつに必竟上の權威者のバカにならぬ事を思はしめた▲商業會議所の資格に關する申請書が宙に迷つて居るとは困つたものだ、我が會議所は誰れが何と云ふと歷史的公團体であるのだ、此大事實を無視せんとする當局官憲はアホーかベラボーかだ。

▲相場電報（十八日）

明治町西村支店着電

▲大阪株式 五月限

▲京坂電鐵 同 五八、〇〇 五七、九〇〇 五八、〇〇 五八、二〇〇
▲大阪電燈 同 六四、六五〇 六四、九五〇
▲紡績 同 六四、六〇〇

▲大阪株式 同 一二五、六〇 一二六、二〇 一二七、三〇
▲同直取引 同 一二六、八〇 一二七、五〇 一二八、〇〇

鳩四月寄十六圓七十四錢▲止不明▲五月寄七十六錢▲止不明▲六月寄九十錢▲五十一圓七十圓▲最高低八十九錢▲最高九十錢▲最低八十一錢▲止八十七錢
●十八日前場 四月寄十六圓七十 五月出來不申▲六月寄

●木内長官出張 木内農商工部長官は生田書記官及び齋藤屬を從へ本

十八日（日曜日）景福宮に於て韓銀、第一、百三十、十八、漢湖農銀、興業、韓一、漢城

韓國銀行文書課を始め各銀行共も盛んに準備中なり

比律賓の蠻民を指導す　米國の偉人　ファインレー氏（中）

△武力よりも同情　即ちジヨロに於けるスコット少佐の如き、コトバトに於けるグワンホルン氏の如き、ダグワオに於けるボルトン氏の如き、何れも良二千わと稱せらるゝ能吏にして、其の名を輝かしたが、尤も顯著なるは、ボルトン氏に次で、ダグワオを統治したるファインレー氏である、氏は身の長六尺四吋體量二百五十封度の風采堂々たる米國の武人であるが、土人は先づ此風采に深く感服したのであつた、氏は單に威風の凛乎たるのみならず、大膽にして同情に富み、且つ熱誠の精神を有し、野蠻人を指導するには最も適任であつたが、氏は着任匆々、劍を脫して蠻民の部落に入り、通譯者に依りて、懇々人道を說いたので、蠻民は其態度の磊落なるとに、一驚を喫したとの事である、元來回教徒は基督教徒を敵視すること甚しく、之を觀れば直ちに殺害せよと信仰を有するので、回徒に熱中するモロ人も屢々ファインレー氏に危害を加へんとしたが、氏は平然として、敵中にあり、非常の忍耐と勤勉とを以て、土人の風俗、習慣、思想、目的を研究し、恰かも親が子供を指導するが如き精神を以て蠻民を指導した

△信仰と實行　ファインレー氏密かに思へらく、如何なる野蠻の民と雖も、之を導くに方法を以てすれば、必ず文明の恩光に浴せしむることを得べし氏は實に此確信を有し、着々其信仰を實行せんと努めたのである、當時土人は巖穴の中に住むもあれば、[illegible]の下に住むもあり、海岸にあるものは魚を捕へて、山中に住む者の馬鈴薯と交換し生活し、來りしが、海岸の蠻民はいつの間にか掠奪を縱にする海賊と變じ山中の民を襲擊したので、後者の大に苦しむ實情を觀たるファインレー氏は苦心すること一方ならず、一種の法律を作り、奴隷を禁止すべきこと、租稅を納むべきこと、殺害すべからざること、財產權を尊重すべきこと等を布告した、此布告の出づるや、土人は非常に愕ろき「我等は奴隷なくして、一日と雖も生活する能はず、閣下は奴隷の制度を御解せず、閣下の定めたる法律は善良ならん。我等は斯る法律の下に生活する能はず」と抗議に及んだ、此抗議に對して、ファインレー氏は諄々として、奴隷のことから、南北戰爭の起りたる歷史を說き、且つ米國の繁華なる都會の繪畫を示し、奴隷を廢止して、產業を勵めば、寂寞たる島嶼も、富美なる國となるべきことを敎へたるのみならず、ザムボアンガに人民大會を召集して、蠻政の制度を說敎した、土民は最初斯る集會に列席することを好まなかつたが、漸次會合することの利便を悟り今日では時を定めて集合するやうになつた

廣告

●主治 ●胃腸病●ゴム病●腸胃加答兒 等に用ひて實効速なり ●常に時々一二粒を朝夕五粒ヅヽ服用せば腸胃の衰弱を治し食物の消化を助くす

くだり病一切の特効藥

健胃固腸丸

大阪市東區伏見町 堺筋角 本舖 谷回春堂 (電話東四五八番) (振替貯金番號八三〇)

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九〇四番 一〇六八 振替口座 京城 十六番

入院隨意 内外科 小兒科 梅毒淋病 京城壽町三丁目 高井醫院 電話(二一六) 院長 陸軍軍醫正 高井貞治

純良消毒牛乳 京城東四軒町 岡野牧場 電話千六十九番

尾州半田 中埜本家 清酢 特約販賣 仁川京城 高雄支店

朝鮮名産 鶴乃箸
○鶴の骨細工種々 ○鶴の羽細工種々 ○朝鮮土産品種々
製造發賣元 京城本町三丁目 海市商會 電話二五〇 振替朝鮮四八
特約發賣元 京城本町四丁目 日之出商行 (電話九五六)
特約發賣元 京城本町六丁目 西崎本店 (電話二一〇)

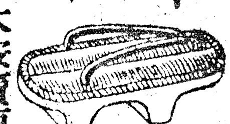
腸胃新藥 タカヂアスターゼ 東京三共合資會社朝鮮總代理店 仁川本町 竹田津三平

酒精アルコール ●新荷着 仁川花町一丁目(電話六五〇番)(電略サ) 坂倉支店

花柳病並痔疾專門 新驅梅藥六〇六號注射應需 京城相生町(南門外)電話一二九四 京城梅毒病院 院長 醫學得業士 蘆田耕平

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候
韓國銀行 電話(參壹番 壹貳六〇番 壹貳六壹番 六拾貳番)
支店出張所(大坂、仁川、平壤、元山、大邱、鎭南浦、木浦、釜山、群山、馬山、城津、羅南、新義州、安東縣)
右ノ外内外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

朝鮮牛種及牛乳改良元祖
消毒純 高等牛乳 京城南大門外 荒井牧場 (電話一〇五六番)
當場飼畜の乳牛は悉くエーアシャ、ゼルシ、ホルスタイーンの最も優逸なる洋牛而巳なるが故搾取する所の牛乳は極めて純良無比なり 當場畜舍及殺菌室等其他一切の設備の完全なる他に比類なし
當場には種畜牛數頭飼養致候間種付御希望の方は御申込被下度候 當場には御進物用牛乳切手發賣致候 其他牧畜に關する一切の業務は叮嚀懇切に取扱可申候間御用命之程希上候
龍山本町三丁目 龍山販賣所 (電話二〇二番)



東京足袋 本店 東京 京城大和町一丁目(日の出橋際) 大和屋 藤井出張店
正札付大安賣 厘毛引なし 安心して買へ升 電話二百〇五番

水車唐箕製造販賣 京城 昭町百七番戸 土井米吉工場 電話千三百二十六番

家傳 名灸(とや) ●うちみ くじき はねつき 特に 胃腸病 かつけ 專門 毎日午後二時迄點灸す 明治町一丁目百十番戸 荒川マッサージ院

紙と印刷 諸紙 諸官衙御用 和洋帳簿 印刷 各種製本 播本(ハリモト)商店 京城本町六丁目 電話百拾番

上等清酒



釀造發賣元 仁川港 吉金酒店 電話七六四番

京城本町二丁目百三十銀行横 野田齒科專門醫院 電話一〇四七番

統監府及諸官衙御用 荷物運搬 引越荷物受負 伊藤組 電話四〇番 本町三 電話七三二番 南大門驛 電話九四八番 大和町 電話一六〇八番 同第二

鐵冷温泉 きゝめのある温泉湯
此の温泉は左の如き病に最も妙なり
一かつけ、痔疾、リウマチス、腰痛、中風、ひふ病、梅毒、りん病、子宮病、血の道、神經痛、やけど、マラリヤ、ぜんき、腦胃加答兒、肺病、ひんけつ症、きりきず、其他内用には鐵冷温泉を併用すれば尤も効能あり
旅館 浴客 貸席 長谷川町一丁目韓銀建築所北横手 電話一四一一番 鐵冷温泉

▲諸紙諸帳簿 ▲柳行李雨樂 ▲襖紙文具類 ▲名刺臺紙
右精々勉強可仕候間多少に不拘續々御用仰付被下度伏而奉願上候
●追て市内は電話にて御用命被下候へば早速持參可仕候
●地方は御注文次第迅速に御送付申上候
仁川新町三丁目 野田紙店 電話四四四番 電略(ノ)又ハ(ノタ) 振替口座(京城三六二番)

世帶道具は何でも有り升
外に宅ノ酩酒 手ヨリ白米 和洋ローソク 上白シメ油 (高)醬油ハ特約品
右品質上等直段下等大勉強販賣仕候間續々御用命奉願上候
日用雜貨御問屋 京城本町六丁目 西崎嘉七本店 電話二百十番 電略(ニカ)又ニ 振替貯金口座京城七番



京城光化門通 淺田洋服店 店主 大島彈藏 (電話四百十二番)

眼科 (日曜及祭日は午後二時迄) 京城本町一丁目(電話三十三番) 醫學得業士 江頭富雄 江頭眼科醫院

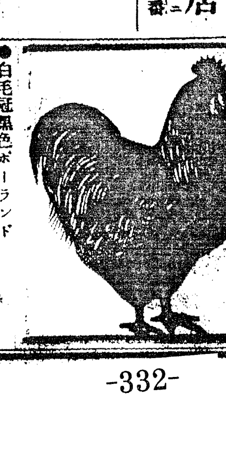
英國セフヒールド市 シーボムアンドデイキスタル製鋼會社特約品
鑛山用 地球鷲印八角鋼 道具用 同 角磨鋼 職工用 同 鑢各種
右は朝鮮一手販賣罷在候處鮮地の材質は鑿具製作用として最も適當の爲め至極好評を博し價格亦内地輸入品より格外廉價に御座候間何卒一度御試用奉希上候
和洋金物商 京城本町五丁目 釘本藤次郎本店 (電話四五番)(電信略號「ク」) 振替貯金口座京城二五六番

恩給 年金扶助料等 五ヶ年 松立替 貸付致す 京城鐘路通り東洋拓殖會社裏小路朝鮮銀行廿九號八戸博多屋 上州屋支店 長電話九〇五番

産婆 芝モト 仁川宮町三丁目長野前向 (電話四一八番)

寫眞 當所の定價の半額 京城本町四丁目 (贊化病院前) 河合寫眞館

蒸溜消毒牛乳 京城南米倉町五十番戸の一 廣養舍 細川牧場 (電話一三六六番)



仁川 杻峴驛前 杻峴養鷄場
●白毛冠黑色ポーランド ●ノーモルガン系黑色ミノルカ ●スミス系橫斑プリモースロック ●クツク系黑色オーピントン ●フエリッチ系銀色ワイヤンドツト ●新輸入ウーダン
右種禽種卵御希望の方には分讓す

芙江公州間 定期出帆廣告 芙江發毎日午後一時四十分 公州發毎日午前七時 芙江着後四時半 御客樣の娛樂用として新聞雜誌將棋盤等の備付あり 京釜芙江驛前 中條運送芙江支店

四月中 滊船出帆廣告
濟州行 海利丸 十九日、廿一日、廿三日、廿五日、廿七日、廿九日 安東丸 十九日、廿二日、廿四日、廿七日、廿九日
漢洋富里浦屯串行 千葉丸 十九日、廿七日、廿九日 三吉丸 廿一日、廿三日、廿五日
蔚島行 三吉丸 廿九日 千葉丸 廿四日
仁川本町四丁目 合資會社秋田商會船舶部

▲神戸米 電報 引 二三、七〇〇（昨日後場） 二三、七〇〇（當日前場） 二三、三〇〇 二三、一〇〇

▲大阪株式（四月限） 西本願寺券 （五月限）

▲紡績 同 六四、六〇〇 六四、九〇〇 ▲大阪同 出來不申 一〇五、八八〇 ▲電燈同 一〇六、〇〇〇 一〇五、八〇〇 ▲東京同 一一六、九〇〇 一〇七、四〇〇 ▲株新同 一一六、九〇〇 一〇七、八〇〇

▲大阪期米 取引所 一二七、三〇〇 一二八、〇〇〇 ●十七日前場 四月止十六圓八十二錢 ▲五月止八十錢 ▲六月止九十三錢 ▲

▲仁川米豆取引 ●十八日前場 四月寄十六圓七十七錢 ▲五月寄八十二錢 ▲六月寄九十六錢 ●十七日後場 四月出來不申 ▲五月寄八十五錢 ▲止八十九錢



京城藝妓の半生（三） 花月樓 若一

「何しろ常ならぬ其の顏色に私は出來事の總てを一目に見て取つて終ひました、夫れと覺悟は極めて居ても万一に繋いだ心の望み、人の噂が噂だけであれかしと祈つて居たのがフッツリ斷れて了つたのですもの

足掛八年

た互ひに實意を運び盡した兩人の交情が今日限り、と思ふと涙も出やしません、タヾ斯う氣が茫として頭はフラ〳〵する、身体中の血は一時に冷へ渡つて失神のした体で兩人とも顏見合はせて居ましたの」と一寸眼を瞬く「少時して傳八さんは『れことれ前も聞いて居るだらう、サア約束だ

一緒に死んで呉れッ』と只つた一言云つてホロ〳〵涙をこぼすのです、私はハッと自分に返つた『何も前世の約束よ若旦那、貴郎は大家の一粒種、其樣綺麗な事が出來ますかよ、私が奇麗に切れさへすれば三方四方丸く納まるのです、元來私の如な不束者が貴郎の御新造に成らうなんて……イクラ貴郎が何んと仰云つて下さつても其樣

非望を初手から起しさへ仕なかつたら今日の此の辛い悲しい思ひは無かつたのです、ツマリが身から出た銹と噂に知つた其の時からチャンと覺悟は爲て居たのです」と立派に口では申しても承知しないのは涙です、差し向いで泣いて居る所へ這入つて來たのが落籍される時口を入れた

れやすと云ふ女、大旦那から頼まれて**若旦那**を迎ひがてら私への手切話しに來たのですが若旦那は何うしても歸らぬ俺は死ぬんだから父へ左樣傳へて呉れ俺がれことに關係して斯うした交情と云ふことを八年が間も見て見ぬ振りをして居ながら今更になつて別れろ切れろは餘まり譯が分らない、嫌だ〳〵と駄々を捏ねて挺子でも動がないのでしようエー眞實に何んなにか思つて居て呉れられたのです」昔し戀しにかゝやく眼の底を泛べば其の當時の戀しかりし悲しかりし事が走馬燈の夫れの如く現映ろくなるべし、少時が程は言葉を切つてアヲヌ方に眸を馳らせし若一が瞼には涙のたばしるよ、襦袢の袖に顏を蔽ふて「オホヽヽ私も隨分馬鹿ですね……、十年も前に斷れた話に今泣くとは勘忍して下さいまし……假令一緒に死ぬにしても一通丈けは歸りなさいましと二度目の使ひの見へた時賺して歸へし申したのです、夫れと云ふのも私は元々若旦那を

死出の旅路の道伴れにとは思つて居ながつたのですから、使の人に伴れつれて悄然と出て行く人の背後姿此れが一世の別れかと私の胸は只モウ充滿、れやすと云ふ女の云ふのは斯うです、既に結納も取り交し結婚式の日取りまで定めたのだが此れ前さんと云ふものがあるので若旦那が諾と云はないから吉村一家を助けると思つて

切れて呉れ、其の代りれ前さんが一生氣樂に暮せる丈の事はする、と云ふのです、私やグッと癪に障つた

『**折角ですが嫌**で御座んす、御存じの通り私もアンナ稼業は致しましたが若旦那の他には男は知らないのです、何處へ出ても後指一本指される私ぢやないのです、義理で斷れて呉れとの頼みなら初手から奇麗に斷れる氣で居たのですから潔く承知を致しますが金錢さへ出せばと思はれては私は承知したいけれど腹の虫が納まらない』と斷然刎ね附けて終ひました」と語る若一の眼は輝く

●病妻を虐待す 仁川

花町二丁目新築裁判所附近に住む○本とか云ふは嘗て京義線は土城の或る軍用煉瓦工場の職工として内縁の妻ちかとの交情は水も洩さぬ程に密なりしかばちかは夫大事と影日向なく働きし甲斐あつて二三年の内に數百圓の貯蓄を爲し得たれば夫婦の喜び譬ひん方もなかりし時しも○本は同嶋主方の女中某と怪しき關係を結びしかば忽ちちかの耳に入り殺すの死ぬのと大悶着が起りし事ありしが仲裁する人ありて納りがつき夫婦の情は元通りとなり自分等に子供の無きを憂ひて遂に養子（親戚）一當年（八つ）を貰受け養育するを樂みに職務に勵み居たりしが去る四十二年の春頃現住所に於て獨て自分の習ひ得たる職業を獨力にて開業する事となり土地の借入家屋の新築等をなし第一番に煉瓦を燒く可き窯を造る際○本は窯の屋根が墜落して右足を折挫し不具の身となりしかどれちかは益々勇氣を出して自ら人夫を指揮して完全なる煉瓦を製造しつゝありしに一昨年前記裁判所の新築せらるゝに及び同所にて煉瓦を燒く事出來ぬ事となりしのみか結氷期に入りければ廢業の不得止に至りたれどちかは數百圓の蓄へに手を附けず自ら某精米所に入り石撰りの賃金を得て夫を介抱し養子の生長を唯一の樂みに爲し居たるに立には附近の人唯一人ちかの精神を賞めぬ者なかりしがちかは去月以來病の爲め床に臥したる折も折り○本が前記土城にて關係せし女が突然尋ね來り此處に起臥する事となし取敢ず金八十圓を土產として○本の前に差出しければ○本夢かと斗りに打喜びかの病氣介抱はそッち退けにして夜を晝へと女を相手の痴話狂ひにちかの病氣は日增し重るより或知人が仲に入り和解せんとしたるに○本更に聽入れず病床に呻吟するちかの境遇うこ憐れなりとの投書ありしが事實とすれば心得違ひなり

娘振り（三）

江頭富雄君義妹 富岡あさ子

あさ子さんは佐賀縣藤津郡大浦村の產である、當地本町一丁目眼科專門醫江頭富雄君の夫人の實妹であるが幼少の時より富雄君の所に引き取られて其薰育を受けて居るのである、デあるから名は義妹で實は實子と同樣である、溫順な與に沈着のある而して勝ち氣もある所に、一寸贊つて置くが此所に云ふ勝とは「忠實な」と云ふ事である、以前から左樣では無かつたが本年三月當地の高等女學校を優秀な成績等で卒業せられた以來は專ら令姉さまの指圖の下に家事見習中であるが全体に器用の質とて手藝に趣味を有して居らるゝ生物は何んでもれ好きだが鼠だけは例外だチウ事だ、何うした譯かと云へば夫れは他でもない幼少の時分れ姉樣からられ目覺にと戴いた菓子を枕許に置いて翌朝ドレ一つと見ると影も形もない詮議の結果で嫌になつたのが即ち鼠である、アラ嫌ヨ〳〵と抑云つても駄目である、花齡正に二十歲、御緣談は未だの如くに承知する。

●嫁が欲さに詐欺

黃海道載寧郡邑內李寧廷（二九）は田舍にて米商を營みしが失敗の結果昨年十二月京城に來り中部琵琶洞寨人下宿徐臺寧方に止宿せしに同家の娘金淑若（二七）が一寸垢拔け居るより妻に貰はんと自分は富家の如く種々なる惡手段を弄し與瑞商文宗補及寃仁成等より金品三百餘圓を詐取したる事北部署探知し目下取調中

●石原技師は無罪

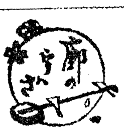
總督府休職技師石原錠太郎の詐欺取財事件に第一審に於て懲役一年六箇月に處せられしより控訴し京城控訴院にて楠裁判長の係りにて公判開廷せられし事は既報の如くなるが該事件は公明なる楠裁判長及辯護士岡田高橋中村の三辯護士の辯論に因り無罪の言渡しありたり

●仁川に窒扶斯患者

原籍京都市下京區京橋町五百十五番地平民當時仁川宮町二丁目古川下宿屋方奥村庄兵衛（三九）は新路漂裸管理所の雇員にして去月廿九日より罹病し去る十七日小倉病院に手り診察せし處腸窒扶斯と判明し同病院より其筋に屆出しより早速官立避病院へ隔離し古川方は十分なる消毒を施行したり

●財布を落す

十八銀行仁川支店の櫻井亮三は十六日午後二時頃より宮町太神宮社前より桃山に至る間に於て第一銀行五圓券一枚一圓十二三枚銀貨一圓十四五錢入の鰐皮製の紙入を遺失し屆出たり



今日此の頃の陽氣に新町遊廓も著しく景氣付き申候て各樓主連も女嬪連も一度にホッと安心の体に御座候例に依つて噂の一二を御通報申上候然りとて決して御遊興を御勸め申さんなどの量見には毛頭御座なく候▲此の頃メッキリ客筋の增加したる日暉樓より現はれたる萬○と申し候は生粹の江戸ッ兒にて本名を武藤すゞ（二二）と申し勿々の愛嬌妓に候▲同樓の菊代は殊の外の花氣狂にて何時も奇麗に飾り居り候但し此の花は決して八々には御座なく候▲皆春樓の小町も評判宜しとは何より結構に候▲京城樓の茶羅子は太田の田舍に住替へ致したれば三面子も責任大に輕く相成候▲第一樓本店の葉櫻は一寸生意氣の如くに候へども流石基督信者丈けありて仲々の心切者客を捉へては斯る處に出入するものではありません天に在す我等の主は、てな事を申して遊客を恐れ入らせて居るとのことヤ褒めませうか何うしましようか殆んど見當が付きかね申候▲龜鶴の九重は過日六〇六號の注射を受けたる由に候へは御御心の程は安心あつて然るべく存じ候▲清月のわやめは頗る評判が善いと何んとやら云ふ人が盛んに褒めて呉れ褒めて與へ申し候▲比較的抱へ妓の少ない井門支店は目下樓主東上中に候▲同樓の春枝一時熱病に罹り戰線に加はり候▲京城樓主も近々東上娼妓抱へ入れの準備中に御座候▲清月、大樹の二樓は少し不廉いと客を申すもの御座候斯樣な場所での經勸定チト不粹で御座んしようぞねと申すものは例の（郭雀）

四ッ手網

◎中券藝妓讀み込都々逸（六） 本町 浪の家

○清華 一駒
一目ちらりと見初めてそめて戀にこゝろも狂ひ駒

○井門 千代
根に根からんで幾千代かけて色も變らぬ女夫松

○翡翠 澄江
水も澄江に姿をうつす堤の柳に亂れ髮

○花月 若一
年は取つても氣は若一の皺をかくした厚化粧

○清華 政菊
たまさか逢ふ夜は口說にふけて明けの烏ゝ夢にきく

●高野山の大法會

新町高野山別院に於ては十九日より二十一日まで弘法大師正御影供大法會を執行し例年の通り二十一日は午前九時より午後六時まで信徒の思ひ〳〵の數ケ所に接待所を設け參拜者一般へ物品を接待するよし今日此頃家外運動の時季なれば定めし參拜者も多からん

●撰拔朝顏種子の分與

多年朝顏の培養に經驗ある長野縣下高井郡篠井部落横田光治氏は多數培養中最も斯界に於て優賞を得たる大々輪五色風鈴咲二色桔梗咲四色切咲（撫子咲二色獅子咲二色臺牡丹咲三色菊咲五色撫種二色等の異正なるを撰拔し以上各別々の袋入と送料共實費三十錢を送る人には速に發り屆ける筈なり

●麝香朝顏種子の無料分讓

最大輪にして花に芳香あり夏季衛生上必適と認むる珍花なるも未だ一般へ普及し居らざるを以て偏讃圖行幸村園藝試驗場は是れを一般へ配布すべく希望者は送代五錢を送る切手三枚を送れば五分以上咲實花朝顏等珍花二十余種を何人にも直に送付する由

●演藝だより

●壽座 同座に於ける壹興行立志團一座十九日の藝題は[illegible]全八幕を大車輪にて開演し尙夜興行は東京寶堂有樂活動寫眞十數番興行の由

●歌舞伎座 同座に於ける阪東鬪二郎實川正三郎合併一座十九日の替狂言は前『鏡の浮世新居斷鈴木主水』切『御所櫻辨慶上使』

●浪花館 吉川△勝京山若圓合併一行の浪花節にして十九日の今晩が讀み物は軍人兵營の夢、娘、敎育、恨の擊鐵、若圓の讀み物として天正武藏萬國不二義士の參討入まで

●歌留多選手正番附

去る日の京龍仁聯合大會成績の結果左の如く決定したりと

東		西	
大關	秋月	大關	元山
關脇	宮田	關脇	大前
小結	石迫	小結	毛井田
前頭	川原	前頭	草野
同	古賀	同	森山
同	瀨良	同	伊藤
同	梅屋	同	村上
同	藤波	同	三谷
同	寺岡	同	石田
同	有尾	同	宮崎
同	小山	同	福島
同	曾野	同	竹本
同	川島	同	佐伯
同	林	同	下田
同	古賀	同	山口
張出大關	馬路	張出大關	高松
張出前頭	伊阪	張出前頭	山崎
同	江藤	同	加藤

幕下

東		西	
前頭	瀨下	前頭	高見
同	眞本	同	牧野
同	米野	同	佐々木
同	井林	同	永海
同	森上	同	楠
同	松成	同	酒井
同	井久保	同	安田
同	城戶	同	平田
同	齋藤	同	荒牧
同	矢野	同	佐藤
同	安達	同	藤井

年寄	松岡
同	前田
後見	高木
同	柏木

廣告

●取消 本月十六日貴社發行京城新報第六百七十號紙上に「中學校雇の公金費消」と題し當校雇書記某公金費消云々御揭載相成候處當校に於ては公金私消の事實毫も無之候に付此全文を御揭載御取消相成度此段申入候也
明治四十四年四月十八日 朝鮮總督府中學校 印
京城新報社御中

京城居留民團規則第四號
明治四十年京城居留民團規則第十二號京城居留民團手數料規則改正ノ件居留民會ノ決議ヲ經左ノ通リ東道長官ノ認可ヲ得タリ
明治四十四年四月十八日
京城居留民團民長 古城菅堂

記
明治四十年四月京城居留民團規則第十二號京城居留民團手數料規則中左之通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第二條第六號及ヒ第八號土地ノ下ニ「家屋」ノ二字ヲ揷入ス

●…分南大門發列車にて出發せり
●日鮮銀行聯合大運動會 來る二十三日の春季聯合大運動會を開催すべく目下…
●…七日入京…月旅館へ投宿せ…